

## 子ども・子育て審議会での主なご意見

**資料 13における「5 計画策定に当たっての方向性」及び「6 計画に盛り込む内容」に反映したもの**

- 次世代育成支援行動計画の反省点として総花的で焦点がぼやけたように感じている。新制度では幼児期の教育・保育及び子ども子育て支援事業に重点を置いているという趣旨を踏まえ進めていただきたい。
- 必要な支援につながっていない方を見落とさずに、必要な支援に繋げていく視点が重要である。
- 新制度において、「量」を形に表さなくてはいけないということに縛られて「質」の部分がないがしろにならないように進めていただきたい。
- 子育て支援の情報発信の方法をさらに検討していただきたい。
- 子育て支援の情報を必要な方に届けるためには、地域のマンパワーの活用をさらに強化していく必要がある。
- 市民と市民の間でどういう子育て支援ができるかなどが今後大事になると思うので、検討していただきたい。
- 児童虐待防止の観点から、親を孤立させないための地域での子育ての取り組みが必要である。

**今後の各論のなかで検討していくもの**

- 「質」を確保するためのサービス提供体制の強化（人員増）を検討していただきたい。
- 相談事業について、単に来た相談に対応していくということではなく、一歩踏み出した取組を期待したい。
- 用途を子どもに関すること（子育て支援サービスや子どもの予防接種、給食費など）に限定した振興券などがあったらよいと感じる。
- 児童虐待防止の観点から、就学前の子どもの情報が小学校入学後にうまく繋がっていくような情報交換、情報提供についても検討していただきたい。